

令和3年4月

**戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）**  
**科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム**  
**プロジェクト企画調査事後評価報告書**

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」  
プログラム総括 唐沢 かおり

**1. 課題代表者**

小島 立（九州大学 大学院法学研究院 教授）

**2. 課題名**

「空飛ぶクルマ」の社会実装における社会的課題解決についての基礎的検討

**3. 実施期間**

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

**4. 事後評価結果**

**プロジェクト企画調査の目標達成状況**

本企画調査は、急速に現実化しつつある新しい移動手段「空飛ぶクルマ」を対象として、その社会実装に向けて克服すべき ELSI を具体的に明らかにし、研究開発プロジェクト構想の基礎的検討を行うことを目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、(1)そもそもこの技術が人間社会にどのような意味があるのか、といった哲学的・倫理的観点からの検討、(2)技術そのものの優位性や標準化、社会に与える影響など、他の技術との異同の整理を含む ELSI 検討、(3)一機関に閉じることなく、日本の特長や文脈の検討を可能とする体制構築、などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、超電導技術を活用した「空飛ぶクルマ」の関連技術の現状把握、技術実装のロードマップや国際標準化等も視野に入れた制度設計の動向調査、ならびに実装によって変革がもたらされる人間社会への影響範囲の検討など、多視点からの基礎的な調査・検討が着実に推進されている。また、「空飛ぶクルマ」の技術実装の是非を含めて根源から問う研究姿勢をもって、ELSI 論点の深い洞察が行われており、本企画調査の目標は概ね達成されたと評価する。

技術開発現場との協業のあり方をさらに具体化するとともに、意欲的な活動によって構築されている多様な立場・視点のステークホルダーとの連携と対話は、今後も継続して行い、研究開発実施体制の強化に取り組むことが必要である。

以上

## (別紙) 評価者一覧

### 〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

### 〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター  
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役  
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)